

自由研究発表 10月11日(日) 【午後の部】 ⑥13:00～13:30 ⑦13:40～14:10 ⑧14:20～14:50 ⑨15:00～15:30 ⑩15:40～16:10							
教室	発表時間	発表タイトル	発表者	所属	研究/実践	発表概要	司会者
第1室	⑥	小学校教員のための英語発音 ICTセルフラーニングシステムの提案	西尾由里 上斗晶代 戸井一宏	名城大学 県立広島大学 元広島市立戸坂城山小学校	研究	2020年度より、小学校3・4年生から外国語活動が導入され、コミュニケーションを円滑にするためには、ある一定のレベルの発音が求められ、発音教育は非常に重要である。しかし、教育現場での発音指導に不安を抱く教員は多く、研修も不十分であるため、英語母語話者の発音の説明がたった発音動画を視聴しながら、自らの発音動画を同時に比較できるICTセルフラーニングシステムを開発し、その活用方法を提案する。	武部八重子
	⑦	小学校教員養成課程の大学生を対象とした発音教材の調査	眞崎 克彦 山本 玲子	神戸親和女子大学 京都外国語大学	研究	小学校教員や小学校教員を目指す学生を対象にした発音記号研修教材を開発し、指導力の向上を目指している。小学校教員の研修や、大学の小学校外国語指導法の授業で活用されることで英語発音に自信をもてる指導者の育成を図りたい。教材のプロトタイプを使用して大学生に授業を行い、指導者用教材としての評価を収集し、改善点を模索するとともに、学生の発音に関する意識面の変化にどのように影響を及ぼしたかを調査検証した。	
第1室	⑧	小学校教員養成課程学生への発音指導についての考察 ―Schwa[a]の発音指導事例より―	伊藤 穂子	武蔵野大学	研究	本研究では小学校教員養成課程の学生を対象に指導実践事例を通して限られた時間での発音指導法について検討をおこなう。該当学生を対象に、Schwa[a]の発音解説とトレーニングを、テキストを利用しながら実施した。指導の際の指導実践方法と、学生がどのような発音をしていたのか、口の形や音についてまとめ、対象学生(日本語母語話者)の音の傾向、発音の癖等を分析し、発音の指導法考察についての発表をおこなう。	石塚博規
	⑨	熟達教師の英語音声指導の変容に関する事例研究―教師の信念との関わりに焦点をあてて―	和田あずさ	兵庫教育大学	研究	本研究の目的は、熟達期の小学校教師の英語音声指導とその背景にある教師の信念が、実践経験の積み重ねによっていかに変容するかを示すことである。本研究では、参与観察と省察インタビューのテーマ分析により、事例となった熟達教師においては、教師の信念は大きく変容しないものの、自身の英語音声指導力と指導対象となる児童の発達特性を踏まえて柔軟に具体的な指導方法の改善を行っていることが示唆された。	
	⑩	児童への音韻認識指導のための英単語発音データベースの構築	高山芳樹	東京学芸大学	研究	児童に英語の音韻認識指導を行う教員の教材作成等に資するよう、小学校段階で学ぶ単語リスト(Let's Try!1, 2の515語及びWe Can!1, 2の761語)に、発音記号、分綴、オンセットとライム、子音結合の出現位置、音節数、強勢パターン、「地名」「色」といったジャンル、対応するカタカナ語のモーラ数等の情報を付与した発音データベースを構築した。本発表ではデータベースの具体的な活用法を紹介する。	
第2室	⑥	教師のTeacher Talkを育てるCLILオンライン教材―聞いて考え発話へと繋ぐスキュアフォルディングを―	伊藤由紀子 柏木實津子	大阪成蹊大学 大阪教育大学	実践	初等英語科教育法におけるオンライン講義で豊かなインプットを行える教員のTeacher Talkの育成を実践し学生がICT教材開発を通してTeacher Talkへの構造的理解が深まるか、CLILを取り入れたTalkとTeacher Questionsにより児童が聞いて考え、発話へと繋ぐためのスキュアフォルディングを支える教員養成の講義を考察した。その結果Talkにおける動詞の使い方、意味への交渉を高揚する表現が出現し、学生らは構造化インプットと認知的談話としてのやりとりのコツを掴んだ。	林裕子
	⑦	合成音声を用いた小学生向けリスニングテストの作成 Google Cloud Text-To-Speechを用いて	横内裕一郎	弘前大学(青森県)	研究	本研究では、小学生を対象とした英語リスニング試験の音声に合成音声を用いてテストを実施することが可能であるかを検証した。小学生を対象としたリスニングテストの場合、文章が短文であることが多いため、特別な処理をせずとも自然な英語を生成する事が可能である場合が多い。分析の結果、英語母語話者の音声を用いたテストと同等の質があることが明らかになり、合成音声を用いたリスニング試験は有用である可能性が示唆された。	
第2室	⑧	小学校英語教育におけるブレンディッド・ラーニングに必要な要素に関する実践研究―ペア・グループ学習の重要性を探る―	角谷尚希	新庄小学校(奈良県)	実践	コロナ禍により本年度実践校では、角谷・前田(2019)の示すブレンディッド・ラーニングから、「ペア・グループ学習」を除いた形で授業実践を行った。その単元末パフォーマンステストにおいて、児童のパフォーマンスをルーブリックに沿って評価し、角谷・前田(2019)に示された同項目の結果と比較を行ったところ、「ジェスチャーの表出」が見られた児童が極端に少なく、他の項目でも少ない傾向が見られた。このことから、小学校英語教育におけるブレンディッド・ラーニングで、コミュニケーション能力を効果的に向上させるには「ペア・グループ学習」という要素が効果的であろう。	福原史子
	⑨	小学校英語教育で活用できるAIの製作とその理念	中村典生 秋山巧磨 荒井研一 小林透	長崎大学 長崎大学大学院生 長崎大学 長崎大学	研究	今回の改訂で学習指導要領に初めてAIのことが言及されたことからわかるように、今後教育現場ではAIとどう向き合っていくかが問われている。本研究は、ALT代わりとなるAIを製作し、それを小学校英語教育の現場に導入することによって、小学校英語指導の主たる担い手である担任教員とAIが相補的な関係を築き上げ、より効果的な小学校英語教育を創造しようとするものである。本発表ではその成果の一端を紹介する。	
	⑩	遠隔授業実践と授業担当者の省察 -大学生及び小学生を対象とした取り組みより-	小柴和香 三ツ木由佳	四天王寺大学 立命館小学校	実践	新型コロナウイルス対策のためあちこちで開始された遠隔授業の形態は多種多様である。本発表は様々な校種で取り組まれてきた遠隔授業実践の1つとして、2つの異なる現場での実践を言語化し、共有することで得られた教訓や見えてきた課題をまとめた実践報告である。今後様々な教育現場で進んでいくと考えられるICT活用・遠隔授業に寄与できる部分があるのではないかと考える。	

第3室	⑥	児童のSmall Talkにおける発話パフォーマンスの変化と情意面の関係 ～Small Talk の指導・児童の実態分析を通して～	山口美穂 巽 徹	岐阜市立厚見学園 岐阜大学	研究	小学校6学年児童の外国語の授業において年間35回Small Talkを実施し、児童のコミュニケーション力の変化を児童の実態から明らかにすることを目的とする。また、英語学習に対する25項目のアンケート結果を分析する。Small Talk を実施した児童の発話パフォーマンスと英語学習に対する情意面との間にどのような影響があるかを検証し、小学校外国語の指導で大切にしていかなければいけない情意面を明らかにしていく。	竹内宣広
	⑦	小学校外国語活動における児童の不安軽減に関する実践研究	千葉奈津江 岡崎浩幸	富山大学教職実践開発 研究科教職実践開発専 攻・滑川市立寺家小学 校 富山大学教職実践 開発研究科	実践	本研究の目的は児童が外国語活動に対してどのような不安を持ち、どのような手立てが不安軽減に役立つのかを明らかにすることである。3・4年68名を対象に2か月授業を実施した。結果として、不安が高いのは「答えが分からない時に当てられる」「1人で発表する」場面で、手立てとして「失敗することの大切さ」を頻繁に伝えたり、「頑張っていたことや励ましの言葉」を児童の振り返りカード に添えたりすることが有効であることが分かった。	
第3室	⑧	子どもの主体性を高める小学校外国語教育— これまでの小学校外国語教育の課題からの見直し —	中垣州代	畿央大学	実践	新学習指導要領の実施に向け、文部科学省やベネッセのデータから課題を分析し、次に現状把握のために、奈良県の教員34名にアンケートを実施した。その結果から疑問に思ったことを現職教員4名と奈良県X市教育委員会指導主事2名にインタビューし、M-GTA (実践的質的研究法) を基に相関図を作成した。そして、「主体的・対話的で深い学び」となる学習をつくっていくために必要なことを整理し、前任校の奈良女子大学附属小学校にて実践した。	大谷五十二
	⑨	資質・能力の育成をめざした授業づくり ～外国語科「自己紹介」の実践～	富田 学	岸和田市立城内小学校	実践	資質・能力の三つの柱(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に沿った、単元末の児童の姿を明確にした上で、授業実践を行う。その際、目的や場面・状況を明確にすることによって、思考・判断・表現する場面のある言語活動を設定する。その結果を、毎時間の「振り返りカード」及び「行動観察」から、本実践の成果と課題について検討する。	
	⑩	パフォーマンス課題への取組に向けたゴール設定の重要性	久保田香直 池田 周	安城市立安城西中学校 愛知県立大学	実践	本研究は、パフォーマンス課題を設定した学びの過程に、目標を明確にしたSmall Talkとふり振り返り活動を取り入れるプロジェクトを通して、中学生の動機づけや意欲の変化を考察することを目的とした。生徒のふり振り返りの分析から、目標を意識することが、活動への取組の質に影響することが明らかになった。これらの結果を踏まえ、小中接続において、目指す姿を理解し、学びをふり振り返り、取組を調整する経験を積ませることの重要性を論じる。	
第4室	⑥	高学年授業におけるドリル学習を伴わない書く活動の効果	瀧本哲弘	明石市立丸小学校 (兵庫県)	研究	文部科学省(2019)によると、小学校高学年における書く活動は、「いわゆるドリル学習のような、単調な繰り返し学習に終始するのではなく、何らかの書く目的を持たせたり、(中略)、児童の学習意欲を高める工夫をする」(p.111)ことが求められている。そこで、「いわゆるドリル学習」をなしに、「何らかの書く目的を持たせた」活動を小学校高学年の2年間続けると、文部科学省(2019)が掲げる「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」目標に、どの程度せまることができるか、加えて、「児童の学習意欲を高める工夫」の観点から、授業中のどのタイミングで、どんな書く活動に意欲が高まるのかを検証した。	川井一枝
	⑦	リテラシー教育の視点に基づく絵本の読み聞かせを活用した英語で書く能力を養成する指導法開発	田縁真弓 オーガステイ ン真智 小野尚美	ノートルダム学院 小学校 ノートルダム学院 小学校 成蹊大学	実践	12のエピソードから構成される絵本の読み聞かせを活用し、英語で読む活動によるインプット、ワークシートによるインテイク、ワークシートに書いた英語表現を音読するアウトプット、そしてアウトプットした内容を書くという指導法を提示する。児童の想像力を駆り立てる絵本の読み聞かせと音声言語と書記言語による一連のタスクが、児童による英語表現の映像化を可能にするため、英語で書く能力を養成することができる。	
第4室	⑧	小学校外国語の時数増と児童の聴解力、自己評価、意識の変容	和田順一 酒井英樹 青山拓実 山本大貴 宮川友梨 大内瑠寧	松本大学 信州大学 信州大学 信州大学 信州大学大学院院 生 信州大学大学院院 生	研究	2020年度より小学校に外国語が教科として導入された。その準備のため、移行期には外国語活動の時間数増加等、移行準備を行ってきた。和田(2019)は総時間数の異なる3つの小学校を調査し、児童が受ける総授業時数の違いが与える影響を、聴解力、自己評価、意識の変容の視点から明らかにした。本研究では1つの小学校に焦点をあて、総授業時間数の違う年度群を比較し、聴解力、自己評価、意識の変容がどのように異なるのかを調査した。	松宮奈賀子
	⑨	複式学級における外国語教育の「学習の質と量」	大野恵理	三重大学	研究	三重県南部地域にある小学校31校のうち16校に複式学級がある(2019年度)。2017年度までは、この地域の複式学級で「A・B年度方式」で外国語活動が指導されてきたが、系統的な内容の指導ができないため学習目標の達成が難しかった。そこで著者は「児童みんなで楽しく外国語の学習」を目指した圧縮版年間指導計画を開発し、2018・2019年度に三重県南部地域のほぼすべての複式学級で実践された。	
	⑩	小学校低学年における英語活動カリキュラム開発の一考察 —効果的な時間配分を探る—	大江太津志	京都市立百々小学校	実践	小学校低学年における英語活動のカリキュラム開発について、児童の発達段階や実態に合わせてどのような実践が可能なのか、特に授業内での時間配分に焦点を当て、分析・実践・考察する。いくつかの小学校の実践について例を挙げ、低学年英語活動のカリキュラム(年間授業時数・時間配分・学習内容等)を分析し、類型化した。その上で、発表者はそのうち2つのパターンの学習計画や授業計画を立て実践した。	

第5室	⑥	開始1年目の小学校外国語活動・外国語科の実践と課題 ―専科指導か担任指導かでの子供達の育ちを見据えて―	高木浩志	宝塚市立逆瀬台小学校	実践	新型コロナ渦の中で、学校再開後に新学習指導要領のもとでの外国語活動、外国語科の授業が始まった。三密を避け、ペア学習やグループ学習もできない中で、外国語専科教員による学習指導とこれまでの担任やALTIによる指導では、どのように子供達の育ちに影響するかを探ってきたい。一学期の途中の経過報告になります。	山崎 祐一
	⑦	外国語・外国語活動の指導力と英語力向上を目指した遠隔講習eラーニングとテレビ会議システムを併用した講習の有効性と課題点―	青山拓実 山本 大貴	信州大学 信州大学	研究	本研究の目的は、小学校教員が外国語（英語）の中学校二種教員免許状を取得するための免許法認定講習ならびに小学校英語専科教員を対象とした外国語・外国語活動の指導力・英語力向上プログラムを、eラーニングとテレビ会議システムを用いた遠隔講習として実施することの有効性や課題点を明らかにすることである。発表では、講座担当の教員と受講者によるフィードバックに基づき、遠隔講習プログラムの可能性について議論する。	
第5室	⑧	現場の、現場による、現場のための授業・業務改善を目指して～小学校外国語授業づくり研究会オンラインサロンの取り組み～	白石裕彦	世田谷区立上北沢小学校	実践	学習指導要領が全面实施され、指導環境が大きく変わる中、現場では様々な課題が出てきている。こうした現場の課題は、現場の実践や知見でこそ解決できると考え、授業・業務改善のために「小学校外国語授業づくり研究会」を設立し、3年にわたり研修や情報発信を行ってきた。現場の先生方や管理職、大学の先生方等、のべ千人以上が参加した研修や全国の先生方をつなぐオンラインサロンについて、その内容と成果について報告する。	名畑目真吾
	⑨	小学生用デジタル教材で小学校教員の英語力は向上するか ―大学生と現職教員の比較による調査―	長谷川修治	植草学園大学	研究	英語力に不安を抱く小学校教員は多い。そこで本研究は、身近にある小学生用デジタル教材を使用した学習で小学校教員の英語力が向上するかを、大学生に対して実施した結果と比較し、可能性を探った。教員の参加者は教員免許状更新講習を受講した18名、比較対象は小学校教諭1種免許取得を希望する大学1年生27名であった。独自に開発した5・6年生用デジタル教材で一斉授業を実施し、リスニング力と情意面から比較考察した。	
	⑩	教師と児童の言語意識を高める英語絵本の活用	松本由美	玉川大学	実践	学習指導要領で目標に掲げられる、小学校英語教育におけるコミュニケーションを図る資質能力を育成するためには、Widdowson (1978)等 が述べるイギリスの言語意識教育、即ち、言語の適切な使用を教えて言語への気づきをもたらすという考えが有効であると推定した。さらに教員研修に導入することにより、教員の言語意識をも高め、ひいては言語教育能力を高めると考えて、言語使用の素材として英語絵本を利用した教員研修の在り方を提言したい。	
第6室	⑥	文字学習に関する児童の自己評価について	アレン玉井 光江	青山学院大学	研究	学習者中心の授業や自律学習への関心が高まるにつれ、自己評価に注目が集まるようになってきた。本研究では公立小学校に通う6年生の児童72名（男子34名、女子38名）のリタラシーに関する自己評価について調査した。児童は文字に関連する知識を問うテストを受ける前と後で自分の力を評価したが、それがどのように変化し、また実際の能力とどのように関連しているのかを研究した結果を報告する。	佐々木雅子
	⑦	「単元計画ブック」を利用した授業づくり2 ～指導と評価の一体化を目指して～	阿部 巧 根岸清人	厚真町教育委員会 元厚真町教育委員会	実践	授業をチームティーチングで行う場合、担当者が目標や指導手順、評価規準等の授業情報を共有することは極めて重要であるが、打ち合わせや計画作りに時間がかかってしまう。昨年度の発表において、「単元計画ブック」を利用して授業準備の効率化と簡便化を図る可能性について述べた。（阿部、根岸 2019）本研究では、単元ブックに加えてルーブリックを活用し、指導と評価の一体化を目指すことを目的とする。	
第6室	⑧	小学校外国語科における「逆向き設計」にもとづく授業実践報告	川村一代 岡井 崇	皇學館大学 国府小学校	実践	今年度から新学習指導要領が全面实施され、5・6年生を対象に教科となった「外国語科」では、「英語を使って○○できるようになる」ことが求められている。すべての児童に「英語を使って○○できるようになる」学力を保障するため、カリキュラムにパフォーマンス課題を位置づけるウィギンズとマクタイの「逆向き設計」の理論にもとづく授業設計が有効だと考え、6年生を対象に授業実践を行い、その成果を検証した。	佐藤 剛
	⑨	small talkを中心とした小学校英語科の授業改善と評価指標の開発・共有	田村岳充	宇都宮大学教育学 研究科専門職学位課程 教育実践高度化専攻	研究	本研究は、栃木県那須烏山市の小学校教員の英語授業実践への教員の不安を軽減し、ALT及び児童との豊かな英語のやり取り（small talk）のある授業作りを支えるとともに、児童のよりよい反応を引き出す授業について考察することを目指す研究である。研究の最終段階では、望まれる児童の反応を指標（シンプトム）化して見取りに生かすとともに、新学習指導要領に基づく3観点での総括的な評価に還元されることを目指す。	
	⑩	臨時休校時におけるオンライン授業とその評価法の開発 英語学習の学びを止めないための試み	吉本 連/田縁眞 弓/オーガス ティン真智/泉 恵美子/ノートル ダム学院小学校	ノートルダム学院 小学校/ノートルダム学 院小学校/ノートルダム 学院小学校/関西学院大 学	実践	オンラインによる指導の重要性が増す中、本研究は、「児童の学びを止めない」ことを目指し、学齢やオンライン環境に合わせた単元設計をすることで学びは保証できるという仮説を立てた。全学年692名を対象に、2か月間、ICTを使った提出物を課し、双方向での指導を進めた。その結果、十分に平常授業での学びを保証できることが判明したが、教材・自作ビデオ等の質の向上、課題を評価する際の信頼性の味などが課題となった。	

第7室	⑥	青森県版小学校英語読み聞かせ教材『AOMORI Picture Book』の開発	丹藤永也	青森公立大学	研究	本研究では、文部科学省小学校移行教材『We can!』のSTORY TIMEの構成要件をもとに、地域教材である青森県版小学校英語読み聞かせ教材『AOMORI Picture Book』を開発した。本教材は、読み聞かせに加え、教科書の付属教材としても活用することができる。また、帯活動のスマール・トークにも有効である。さらに、スク립トの音源や指導例をつけているので、指導経験の浅い教員でも児童と豊かなインタラクションを行うことができる。	新海かおる
	⑦	小学校外国語科検定済教科書における語彙分析	本田勝久 小川一美 染谷 藤重	千葉大学 京都女子大学 京都教育大学	研究	平成29(2017)年3月に公示された学習指導要領では、第5学年及び第6学年の内容(語、連語及び慣用表現)に「第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語」を扱うことが規定されている。本研究では、令和2(2020)年4月から使用されている小学校外国語科検定済教科書7社分(計14冊)に記載されている語彙を分析した結果を報告する。小学校外国語科各教科書に記載されている語彙とバリエーション、語彙の使用されている文脈などを比較するとともに、特に、移行措置期間に使用されていた教材Let's Try!、We Can!での使用語彙と比較分析した結果を報告する。また、教科教化された小学校外国語科で必要となる教育語彙について議論する。	
第7室	⑧	小学校英語検定教科書の現状と課題 小学生はどんな英語を学ぶのか	折橋晃美	長野県佐久市立野沢小	研究	小学校の検定教科書をブルームの改訂版分類法を指標に分析した。1)教科書記載の言語活動の特徴、2)検定教科書の実態と問題点(課題と改善の方向)が明らかとなった。知識技能の獲得を重視しすぎることなく、有意なドリルやコミュニケーションプラクティスが必要であることが見えてきた。	階戸陽太
	⑨	小学校高学年の英語検定教科書 — 4技能5領域の視点からの分析—	早瀬沙織	中村学園大学	研究	2020年度より、小学校高学年で英語が「教科」として全面実施となった。全面実施に伴い、7社から検定教科書が出版され、2020年度より使用されている。本発表では、7社の検定教科書におけるWe Can!との相違点、各出版社の違いと特徴、また各出版社の4技能5領域の割合について比較し明らかにする。	
	⑩	小学校外国語科の教科書分析 — 語彙の観点から—	土屋佳雅里	東京成徳大学	研究	第5、6学年で使用されている小学校外国語科の検定済教科書(7社、14冊)では、指導内容や方法等において各社ごとの特徴がある。内容は教育の機会均等の保障が示されるが、採択教科書により自治体・学校に差異が生じる可能性がある。例えば、語彙でいうと、学習指導要領で明示される語彙数で大差は無いとしても、語彙内容での差が考えられる。そこで、語彙の観点から教科書を比較・分析し、使用語彙の適切さや課題を考察する。	
第8室	⑥	小学校「外国語」のSmall Talkに必要な指導力 — 教職課程における育成の試み	池田 周	愛知県立大学	実践	Small Talkは、既習の語句や表現を活用しながら対話の続け方を習得するためのものである。その初期段階では「指導者と児童のやり取り」を十分に行ってから「児童と児童のやり取り」へと発展させることが有効である。本研究は以下2つを目的とする：(1)「モデル」のやり取りにおいて指導者に求められる能力や意識を論じる、(2)小学校教職課程の学生を対象に、(1)で提示した能力等について一定期間の試行的指導を行い、その成果を考察する。	濱中紀子
	⑦	教職課程の学生を対象とした英語力・指導力向上の取り組み—授業外での自己研修と授業内での実践を通して—	松永 舞	京都産業大学	研究	小学校英語教育において、教員を目指す学生の英語力・指導力の向上が急務である。一方で、コア・カリキュラム(以下CC)で示されている授業時間では学生が科目内容を十分に習得することは難しい。そこで本研究では、1年間の授業を通して、担当教員が授業内容に実践練習を取り入れることと、学生が授業外に自己研修を行うことで、CC内容の習得を補完できるかどうかを、アンケート調査等を用いて量的、質的に検証した。	
第8室	⑧	教員養成課程における教室で使用する英語力向上のための動画を活用した自主学習教材の効果：classroom EnglishとCLILに必要な英語	執行智子	東京未来大学子ども心理学部	研究	小学校教員養成課程「英語科指導法」において、多くの時間を割くことが難しい教室で使用する英語(classroom EnglishとCLILに必要な英語)力を養成するために、動画を活用したclassroom Englishの自主学習教材を、2週間導入し事前事後テストした結果、70%(classroom Englishでは54%、CLILに必要な英語では90%)の項目数において有意な差があった。また、参加者の多くは本自主学習を肯定的に受け止めていたことから、動画を活用した自主教材は、効果があると言える。	内野駿介
	⑨	小学校英語教育に対する教員志望学生の意識調査：教科としての外国語科実施に際して	小木曾智子	筑波大学大学院	研究	小学校で外国語科が実施されている今、教員養成においては、外国語活動・外国語科の異同を理解し、適切に指導できる学生を育成することが必要である。本研究では、小学校教員を志望する大学生を対象に、小学校外国語活動・外国語科に対する意識を調査した。また、外国語使用や学習に関する学生自身の意識についても併せて調査した。結果より、今後の教員養成課程のあり方について考察する。	
	⑩	オンラインに対面を取り入れたハイブリッド型授業—小学校教員養成課程「外国語の指導法」での試み	白土厚子	東京学芸大学	実践	本発表は、オンラインを中心に2020年度前期に実施した小学校教員養成課程「外国語の指導法」の授業について、指導者はどのような工夫ができるのか、学生は何を求めているのかを調べるため、学期末に実施した学生への授業アンケートや模擬授業後の感想から授業を量的、質的に分析し、今後も速隔授業が予測される状況で、授業改善を図るための必要な手立てについて考察する。	

第9室	⑥	電子辞書を活用したLight CLILの効果—社会科と外国語科とのCLILの実践より—	永田智也	玉川大学	実践	近年ヨーロッパを中心にCLILが広まりつつあり、日本でもいくつかの実践例が挙げられるようになった。児童の各教科の既習事項を扱うため、児童、教師両者にとっての英語のレベルが高くなってしまふことが課題として挙げられている。今後、教科横断的な授業を実践していくためにはこういった課題の解決が急がれる。本研究では、そういった課題を克服するため電子辞書を活用したCLILの実践を行いその効果を検証するものである。	加賀田哲也
	⑦	日本の過去に目を向けた小学校英語教育（2）—CLILは昭和初期の時代にもあった？—	二五義博	海上保安大学校	研究	CLILの研究をする際には、海外ばかりではなく日本の過去の良き実践例にも目を向ける必要がある。前年度の発表においては、明治時代の小学校用国定英語教科書にCLILの要素が数多く見られることを明らかにした。本発表では、明治時代との比較をしながら、昭和初期の小学校用国定英語教科書の分析を通して、「内容」「言語」の2つの軸から、どのような他教科の内容が取り入れられ、どのような言語の習得が目指されていたのかを考察する。	
第9室	⑧	CLIL活動と児童の外国語学習に関する情意要因の関係	安達理恵	椋山女学園大学	研究	昨年度のJES課題研究（安達他、2020）では3つの小学校でのプロジェクト型のCLILを高学年の児童で実践し、活動の事前・事後で質問紙調査を行い、量的分析と質的分析を行った結果、児童自らの学びによる成長が重要という結果を得た。今回は、プロジェクト活動と児童の外国語学習に関する情意要因の関係性について量的分析を中心により詳細に検討し、CLIL実践の効果と児童の外国語学習における教育的示唆を得ることを目的とする。	瀧沢広人
	⑨	ことばの教育として国語と連携する小学校外国語の教材開発	王 林鋒	福井大学	研究	小学校言語能力の育成にあたっては、教科横断的な視点から国語と外国語が連携する教育課程の編成を図ることが重要視されている。言語能力の向上を実現するため、教育現場における外国語教育と国語教育との連携を目指した具体的な取り組みの開発が期待されている。そこで、本研究では、小学校国語教育と外国語教育が連携する教材開発に焦点を当てその必要性を提示し、実現可能な教材集を提案する。	
	⑩						